

## 欧州グリーンディールと金融機関の役割

関西大学商学部

高屋 定美

EU(欧州連合)が2019年12月に新たな成長戦略として打ち出された欧州グリーンディールは、2050年気候中立(温室効果ガス排出実質ゼロ)を達成することを目指し、様々な経済領域に対して、諸政策を割り当てて、脱炭素社会を構築しようとしている。このグリーンディールでは脱炭素を促すサステナブル・ファイナンスを重視している。本章ではEUでの銀行監督を行う欧州銀行監督機構(EBA)のサステナブル・ファイナンス戦略に焦点をあて、現在の戦略を検討する。さらに、欧州の金融機関におけるサステナブル・ファイナンスの事例としてGLS銀行(ドイツ)、BNPパリバ(フランス)、バンコBPM(イタリア)を取り上げる。それを通じて、現時点での欧州金融機関の取り組みを検討し、わが国金融機関への示唆を探る。

EU(欧州連合)が2019年12月に新たな成長戦略として打ち出された欧州グリーンディールは、COVID-19危機からの復興経済政策の中核に位置づけられ、「次世代EU」という復興基金が、その復興政策資金面でサポートして動き出している。欧州グリーンディールは、2050年気候中立(温室効果ガス排出実質ゼロ)を達成することを目指し、様々な経済領域に対して、諸政策を割り当てて、脱炭素社会を構築しようとしている。グリーンディールの最大の特徴は「環境(気候変動)政策とエネルギー政策を統合すること(カップリング)によって、経済成長と資源利用を切り離すこと(デカップリング)を可能にする新たな制度構築の試み」である。したがって、経済成長を目指すものの、資源利用、特に化石燃料の利用を削減してゆく産業政策といえる。

欧州グリーンディールでは、金融面が重視されている。欧州グリーンディールの政策文書(European Commission 2019)の第2章第2節では、脱炭素社会への変革に必要な資金調達の指針が示されている。すなわち「金融と資本の流れをグリーン投資に向け、座礁資産を回避するための長期的なシグナルが必要である」として、EUタクソノミーを用いて金融システム全体をサステナブル・ファイナンスに転換させようという狙いがうかがわれる。

そこで、本報告ではEUでの銀行監督を行う欧州銀行監督機構(EBA)のサステナブル・ファイナンス戦略に焦点をあて、現在の戦略を検討する。さらに、欧州の金融機関のサステナブル・ファイナンス戦略の事例を簡単に取り上げ、サステナブル・ファイナンスの進捗状況を検討し、わが国金融機関への示唆を探る。